

とやまゼミナール



蜃気楼のふしぎ ③

見る・撮る

日本蜃気楼協議会長 きのした まさひろ 木下 正博

蜃気楼の見かけの大きさを月と比較してみましょう。写真は、魚津から黒部市生地方向(約8.5



蜃気楼と月の大きさの比較 (日本蜃気楼協議会提供)

キロ)に発生した上位蜃気楼と同じ倍率で撮影した月です。比べてみると、蜃気楼の変化はそれほど大きくないことが分かります。ちなみに、月を肉眼で見るときの視角(どれくらいの角度で見えているかを表す値)は0.5度程度しかありません。これは5円硬貨を手を持ち、腕を伸ばした状態でその穴の中を見ているようなものです。そのため、蜃気楼を詳しく観察したり撮影したりする

には、双眼鏡や望遠機能付きカメラが必要となります。

【蜃気楼を見る・撮る】

蜃気楼の決定的な瞬間を残すには、どんな機材や準備が必要でしょうか。まずはじっくり観察するために双眼鏡がいりが必要です。高価でなくてもよいのですが、できるだけレンズの大きなものがよいでしょう。倍率は8~10倍くらいが使いやすいです。あまり高倍率では、手ブレ

決定的瞬間を残そう

の影響でかえって使いづらくなります。双眼鏡で観察するポイントは、蜃気楼が発生する前の景色をよく覚えておくことです。これで発生の際の兆候がすぐに発見できま



魚津から富山方向に400ミリのレンズで撮影した蜃気楼(日本蜃気楼協議会提供)

す。せっかく出合えた蜃気楼は、カメラで撮影したいものです。画質や画角にこだわらず、ある程度の倍率さえあれば撮影できます。カメラやビデオの倍率は、広角に対して何倍という紹介が一般的ですが、注目すべきは、カタログなどに記載してあるレンズの焦点距離(35ミリ換算)です。写真は400ミリの相当のレンズで蜃気楼を撮影したものです。双眼鏡の感覚では8倍程度に相当します。蜃気楼の撮影には300ミリあたりが最低ラインとなるでしょう。なお、撮影ではブレを抑えるために三脚の使用をお勧めします。

【熱中症に注意】

その他に準備しなければなら



蜃気楼を観測する時の準備

ないことは、4月~6月にかけての上位蜃気楼の発生日は必ず晴れて暑くなります。熱中症予防や日焼け予防のため、パラソルや帽子、日焼け止め、飲料水が必需品です。長時間じっくり待つ場合もありますから、折りたたみ椅子やラジオ、本なども役に立ちます。

☆毎週火曜日に掲載します